

## ミャンマー小学校贈呈式報告

### 「初めての新校舎、初めて見る絵本 初めての移動図書館車」

今年の二月四日(水)ミャンマーのपीー県にあるザヤトウガ小学校贈呈式に澤元社長夫妻をはじめとし一二名のスタディツアーを実施した。

成田空港、午前一一:三〇発のNH九一三便にて七時間のフライト、日本とは二時間三〇分の時差であるが全員疲れも見せず、現地時間で午後五時三〇分にヤンゴン空港に到着。二月は乾期なので暑さも思った程ではなかった。一日目はヤンゴンのホテルにて宿泊、二日目は午前八:〇〇ワゴン車(ハイエース)二台に分乗し、पीー県に向けて出発、朝の通勤ラッシュはどこの国も同じであるが、ヤンゴン市内はバイク禁止なので交差点で並ぶバイクの集団は見られない。しかし、スピードとクラクションの掛け合い、これから約三〇〇

kmのレースである。助手席に乗った私はシートベルト無しにはいられないがドライバーは無視、車両は右側通行なので右左折の感覚がおかしく疲れが増す、ほとんど信号機のない簡易舗装道路を猛スピードで走行、七時間を過ぎて到着。ここは日本のテレビが「こんな処にも日本人」で紹介したपीー県だ。北へ三〇〇kmはさすがに涼しく感じた。地図上ではタイのチェンマイと同緯度である。早速ゲストハウスへ直行、予想よりははるかにきれいな建物だ。しかし、ヤブ蚊が多い・蚊取り線香を持参して良かった。東南アジアの香取線香は蚊追い線香だから効かない。いや仏教国なのである。贈呈式当日は天気にも恵まれ、朝から小学校へ向けて出発、既に待ちわびていた小学生が歓迎の花道を作って待っていた。澤元夫妻を先頭に学校内へ向かう、といってもカンボジアなどに比べると規模は小さい。カンボジアでは前晚より地域

の村祭りの如く祝い当日は疲労した大人たちも少なくなかったがここは違った。貧しい家庭の子が通う仏教小学校、わずか一〇二人の生徒の歓迎だ。それにしても素晴らしい歓迎だ。



子ども達に歓迎されて

式典は現地の僧侶の読経から始まり、続いて私たち日本の僧侶の読経等、やはり仏教国を象徴する式典である。校長先生は僧侶、来賓の祝辞を終えて生徒達の歓迎踊りがあった。この日の為に練習を重ねたという踊りは先生や見守る親の顔からもその真剣さが伺えた。贈呈式終了後

はすぐに帰路の予定であったが、現地の食事を振る舞ってくれるとの事、通常は現地の食事は日本人には無理な場合が多いので遠慮していたが、今回は初めての贈呈式ゆえに無碍に出来ず、不安の中でご相伴することとなった。

ところが麺類、ご飯、カレー等が並び本当に美味しく私たちに配慮（本来は辛い系統）してもてなしてくれた。やはり食事のお付き合いは大切である。少々恥ずかしかった。感激しながら再び緊張の帰路である。相変わらずの猛スピードは救急車を追い抜いて行くなど、日本では経験で出来ない事だ。理由は夕食の予約時間に間に合わないとかキャンセルされてしまうとの事？。夕食も格別の思いだった。三日目の観光ではやはり寺院参拝が中心でその大きさと重厚さ、そして昼も夜も老若男女多くの参拝が続く光景はさすが仏教国を象徴していた。そして忘れてならないのは日本軍墓地での供養だ。二十数年前にタイの日本軍墓地に参拝したが他国とは比較にならないものだった。しかし、ヤンゴンの墓地は整備されていた。私は過去に難民キャンプで老人か

ら「日本の兵隊に切られた」と頭の傷を見せられて言葉がなかった事を思い出し、現在の活動は贖罪だと思いう時もある。さて、四泊六日で駆け巡るミャンマーのザヤトウガ小学校贈呈式が無事円成した。



移動図書館の絵本に喜ぶ子供たち

以前より仏様のご縁で澤元社長には又ンソンサン浜松の国際教育支援の協力を呼びかけてラオスにも参加して頂いた。澤元社長も昔の職人、学校を卒業し大工として厳しい修行をした最後の年代、贈呈式での祝辞に「勉強と友達は

大切」の言葉の裏にはそんな社長の苦労がにじんでいるようであり、また自分の学校のように喜んでおられた。

毎回の贈呈式（スタディツアー）で感じることは「多くの事を学ばせていただく」ことは、支援する側がされる側から学ぶことのほうが多い、これが結果だと思ふ。「宇宙船地球号」と言う名を耳にしたことがあるだろうか。私たちが住む地球は宇宙船と同じ。一等船室から三等船室まで、それは先進国から発展途上の国まで同船の意味。そのひとつの国でもトラブルを起こせば宇宙船は失速し沈没だ。安定飛行には世界の総ての国が平和で安心して暮らせる事が必要条件である。それには、まず読み、書き、計算が出来る為の教育と情操教育ではないだろうか。カンボジアでこんな事があった。日本の絵本にカンボジア語を貼ってプレゼントしたところ、小学生は初めての絵本に大はしゃぎ、しかし、大人達はただ眺めているだけだった。実は字が読めなかった。今回もそうだ。現地の人は初めての新校舎、絵本、文房具にどんな感動があっただろうか。



また、私はツアーでいつも感じる事は現地では一ヶ月の給料が一万円以下。一日にすると二〜三百円程度、しかし缶ビールは一〇〇円だ。外国人が食事の度に飲むビールは、彼らに取っては一年に何回かの飲み物ではないか。支援とは言えこの現場はどうか。

かつて私が子供の頃と言えれば何もない時代だった。新しいモノへのあこがれや興味は大変なものだった。「いつかは自分も」と思った。今、世界の格差は日々大きくなっていくのではないか。経済至上主義の社会からすれば仕方のないことではある。しかし、自然環境、経済環境、宗教環境等々しかたのない事情もある。

日本が過去の大战から復興出来たのは私たちの努力である。しかし、現在豊かに暮らせるのは発展途上の国のおかげでもある。ここで先進国の我々にも出来る事は、自分たちの幸せを少しでも分けてあげることではないだろうか。私たち僧侶の出来る布施行ではないか。

積尊の願いは平和と平等。この度、新築されたザヤトウガ小学校で学ぶ生徒

達が正しい生き方を学び平和な世界の第一歩となることを期待してやまない。

末尾ながら澤元社長には大きな布施行を努められたこと、またご多忙な中を夫人のご同行もいただき、衷心より感謝と御礼を申しあげたい。

文責 龍谷寺 笛岡賢司



ザヤトウガ小学校の新校舎

一〇数年前のラオス依頼二度目のノンソンサン浜松の、スタディツアー・ザヤトウガ小学校の開校式に参加しました。嬉しそうな子供たちの笑顔がとても印象的で、この子どもたちが毎日学校へ通えるようにと願うばかりです。そしてミャンマーはアジアの最貧国、まだまだ援助が必要な子供たちが大勢います。宇宙船地球号の一乗員として、これからもできることをしなければと心から思いました。

(株)天峰建設 澤元教哲



子供たちとの記念撮影

## 本堂・位牌堂上棟

### 延命寺様（浜松市北区）

大寒を二日後にひかえた一年で最も寒い一月一日に延命寺様（曹洞宗・大澤光昌住職・浜松市北区三ヶ日町）では本堂の上棟式を迎えました。新しい年が始まって間もなくの一月九日から建て方の工事は始まり、無事に上棟の日を迎えることができました。



上棟法要の様子

当日はお天気もよく住職はじめ建設委員の皆さんも準備に忙しく、檀家の皆様も



棟梁による四方への散米式

大勢集まってきました。上棟の法要が午後三時から始まり、その後は引き続き大工による工匠の儀を行いました。工匠の儀は曳き綱の儀・棟納めの儀・鳴弦の儀そして散米式と行われ、その後は檀家の皆さんのお待ちかねの餅投げをして終了しました。本堂は間口七間 奥行六間半 単層向拝付千鳥破風入母屋造りとなります。書院も檀家の皆様にも使いやすいように設計されており完成がまたれます。そして二月二六日には位牌堂の上棟式も行われ、今後は書院の上棟式を四月に行い、本体工事は来年の二月に終了し引渡しの予定で工事を進めていきます。

## 津島神社上棟式

磐田市大久保

津島神社では拝殿・幣殿・本殿の上棟式を二月一五日（日）に行いました。当日は朝から良い天気恵まれ、一五時よりの式には総代・建設委員・大工が出席しました。振幣の儀では宮司が振り幣役をつとめ、出席者全員が声を掛け合わせにぎやかに行われ、そして大工が屋根にのぼり棟木を納めました。式の終了後にはお待ちかねの餅投げがあり、みんな沢山拾って帰りました。秋の祭典には新しくなった姿をお披露目できることと思います。

